まほろば・童話の里

浜 田 広 介 記 念 館

館　　報

第 26 号

（令和7年度）

まほろば・童話の里　浜田広介記念館

浜 田 広 介 略 歴

明治 26 年（1893）年山形県東置賜郡屋代村一本柳（現高畠町）に浜田為助の長男として生まれる。

山形県米沢中学校（現米沢興譲館高等学校）を経て、早稲田大学高等予科に入学。その年に短編小説「零落」が「万朝報」の懸賞小説に入選したのを最初として 7 回の入選を数え、「途暗し」では北村透谷賞を受賞している。また、最初の童話作品「黄金の稲束」が大阪朝日新聞の懸賞に一等入選、選者の巌谷小波氏よりその善意性を激賞される。以後、善意の精神を創作の拠とする。

関東大震災後、文筆生活に入る。空想と実相とを要素とした『ひろすけ童話』の中には、素朴で純情な郷土性と、母のふところにも似た温かさと優しさが漂い、美しい芸術作品として今なお読み継がれている。「黄金の稲束」発表以後、50 余年の作品は、1,000 編にも及び、「むく鳥の夢」「泣いた赤おに」「りゅうの目のなみだ」など、珠玉の名作を残した。それらの作品は、歳月を経た今日もなお、『ひろすけ童話』に接した人々の中に、あるいはまた、子どもらのもっとも身近な「文学」として、脈々と生き続けている。

その功績に対して、昭和 15（1940）年に児童文化賞、昭和 17（1942）年に野間文芸奨励賞、昭和 28（1953）年には、文部大臣芸能賞が授与された。また、昭和 30（1955）年には、日本児童文芸家協会の初代理事長となり、次いで初代会長に就任した。

昭和 39（1964）年、郷土高畠のひろすけ会が中心となり、古希を祝い、鳩峰高原に「むく鳥の夢」の童話碑、昭和 40(1965)年には母校屋代小学校校庭に「道ばたの石」の碑が建立された。昭和 47（1973）年 11 月、高畠町では初めての名誉町民に推挙され、高畠町役場庁舎（旧）前庭には「回顧の碑」が建立された。

深い信頼と愛情、そして善意に満ちた数多くの作品を残し、昭和 48（1973）年 11 月 17 日、永眠。享年 80 歳。

ご　挨　拶

まほろば・童話の里　浜田広介記念館
館長　**金　子　研　司**

町当局をはじめとする関係各位、そして地域の皆様には、日頃より多大なるご指導、ご支援を賜り深く感謝申し上げます。

今年度も、基本方針にある浜田広介の文学的業績の普及顕彰活動、高畠町の教育・文化・観光施設として、また、高畠町の文化振興を通した人づくり、町づくりの拠点として記念館運営の充実に努めてまいりました。

コロナ禍の収束以降少しずつではありますが、来館者の数も増加し、様々な方に記念館へ足を運んでいただけるようになりました。また今年度は、「ひろすけ童話のふるさと」というテーマで企画展を開催し、広介が生まれ育った高畠、そして疎開を期に頻繁に交流するようになった高畠の人々との関わりを、その当時交わした書簡等の資料展示を通して、地元の方を始め多くの方に発信することができました。加えて童話の根底には、しっかりと「郷土と郷土の人に対する愛情」があることを知ってもらえる、良い機会にもなりました。今後も魅力ある企画展や展示を心掛け、様々な視点から広介、ひろすけ童話に親しんでもらいたいと思っています。

設立後３６年を経過し、施設設備の補修更新や組織体制など課題は山積するものの、今後も幅広い年代に対応した展示の工夫や教育施設としての学習機能の充実、館内外の環境整備、広報活動に取組み、今まで以上に町の重要な教育文化施設としての役目を果たしてまいりたいと考えておりますので、関係者の皆様のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

もくじ

〈Ⅰ〉まほろば・童話の里　浜田広介記念館概要・・・・・・・・・・・４ページ

〈Ⅱ〉公益財団法人　浜田広介記念館概要　・・・・・・・・・・・・・５ページ

〈Ⅲ〉事 業 概 要
１．浜田広介記念館の運営　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６ページ
２．重点方針と運営の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６ページ
３．業務及び事業報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７ページ
４．その他の業務　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５ページ
５．関係各団体との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６ページ
６．１年のあゆみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８ページ

〈Ⅳ〉管理に関する協定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０ページ

〈Ⅴ〉組織及び役職員
１．組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１ページ
２．役職員構成と職員構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２ページ
３．業務の委託(再委託)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２ページ
４．理事会・評議員会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３ページ

〈Ⅵ〉付　録
１．令和７年度　入館者数、施設利用者状況・・・・・・・・・・・２４ページ
２．年間入館者数、施設利用者数推移・・・・・・・・・・・・・・２５ページ
３．収蔵資料数一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６ページ
４．資料等寄贈者一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６ページ

〈Ⅰ〉まほろば・童話の里　浜田広介記念館概要

1.施設の概要

(1) 建設：第1期工事（本館部分）　昭和63年6月着工　平成元年3月完成
　　生家移築　平成11年8月着工　平成11年8月着工　平成12年3月完成
　　第2期工事（ひろすけホール）平成13年8月着工　平成14年3月完成
(2) 設置者：高畠町
(3) 開館：浜田広介記念館開館式　平成元年5月25日（広介生誕の日）
　　生家開館記念式　　平成12年5月25日
　　ひろすけホール落成式典　　平成14年4月21日
(4) 敷地面積：18,569.19㎡
(5) 延べ床面積：1,615.44㎡　内訳／本館　687.97㎡
　　ひろすけホール及び廊下　710.89㎡　生家　129.90㎡　その他　86.68㎡
(6) 設　　計：第1期（建築)、第2期工事　株式会社岡田新一設計事務所
　　第1期（展示）工事　株式会社環境設計組織
(7) 建築工事：第1期工事（建築）　株式会社千歳組
　　第1期工事（展示）株式会社乃村工藝社
　　第2期工事（建築）　株式会社大林組　広介生家　有限会社新藤建設
(8) 建 設 費：第1期工事　55,000万円　広介生家　3,990万円
　　第2期工事　32,500万円

2.利用のご案内

(1) 開館時間：9時～17時（12月～3月は9時30分～17時）
(2) 休館日：毎週月曜日／祝日の翌日　年末年始（12月28日～1月4日）
(3) 入館料：大人500円（300円)、学生300円（200円)、小・中学生200円（100円）
　　※（　）は15名以上の団体料金
(4) 施設利用料：ひろすけホールの多目的ホール、会議・研修室は有料で貸し出しを行っています。施設利用料に関しましては、お問い合わせください。
(5) 喫茶コーナー：営業時間は10時から16時です。コーヒー、山形県産果汁100%ジュース、赤おにソフトクリーム（期間限定）などを販売しています。
(6) 売店コーナー：ひろすけ童話の絵本や単行本、「ひろすけオリジナルグッズ」他、歴代「ひろすけ童話賞」受賞作品を販売しています。

〈Ⅱ〉公益財団法人浜田広介記念館概要

1.概　要

(1) 名　称　公益財団法人浜田広介記念館

(2) 所在地　山形県東置賜郡高畠町大字一本柳 2110 番地

(3) 代表者　理事長　近野久左エ門

(4) 目　的

高畠町出身の童話作家浜田広介の文学的功績をたたえ、浜田広介と児童文学に関する資料の収集、保存、展示をすることによりその業績を永く後世に伝えるとともに、地域の芸術文化及び児童文学の向上発展に寄与し、あわせて県内外から多くの人が集う文化施設としての役割を果たすことを目的とする。(「公益財団法人浜田広介記念館定款」第 3 条)

(5) 主な事業

①浜田広介に関する資料の収集、保存、調査研究に関する事業

②「ひろすけ童話賞」の実施

③児童文学に関する講座、講演及び各種イベント等の実施

④児童文学活動の振興及び奨励

⑤物品販売に関する事業

⑥その他この法人の目的達成のため必要な事業

(「公益財団法人浜田広介記念館定款」第 4 条)

2.経　過

・平成　2 年 2 月 20 日　山形県へ財団設立許可申請

・平成　2 年 3 月 22 日　山形県へ財団設立許可通知

・平成　2 年 4 月　5 日　財団設立登記完了

・平成　3 年 4 月　1 日　まほろば・童話の里浜田広介記念館の運営受託

・平成 18 年 4 月　1 日　まほろば・童話の里浜田広介記念館の指定管理者

・平成 24 年 4 月　1 日　公益法人移行認定申請

・平成 24 年 3 月 20 日　公益法人移行認定書受領

・平成 24 年 4 月　1 日　公益法人移行登記完了

〈Ⅲ〉事 業 概 要

１．浜田広介記念館の運営

《 基 本 方 針 》

浜田広介の文学的業績の伝承・普及並びに地域の芸術文化及び児童文学の向上発展に寄与するとともに、高畠町の文化・教育・観光施設として、また、高畠町の文化振興及び町民の福祉の向上を通した人づくり町づくりの拠点として適切な管理運営に努める。

① 地域にあり、地域とともに、ひろすけ童話と高畠を県内外、全国に発信する施設。
② 高畠の子育てや幅広い年代による地域活性化など社会教育拠点としての施設。
③ 公益法人としての各種事業を推進するとともに、サービスの向上と経費節減に努める施設。

《 達 成 目 標 》

① 「ひろすけ童話賞」・「ひろすけ童話感想文・感想画全国コンクール」（第３５回）、「造形創作コンクール」（第２２回）の拡充発展とひろすけ童話の一層の普及、更なる知名度の向上に努める。
② 記念館ホームページや時宜を得た広報活動を通し、記念館の魅力的な情報を提供する。
③ 魅力的なイベントの企画・運営に努め、参加者の拡大を図る。
④ 収益事業（施設利用と売店・喫茶事業）は採算性を考慮しつつ充実・発展を図る。
⑤ 節電・節水を推進しつつ、快適で効率的な施設管理及び保全に努める。
⑥ 町当局との連携を密にし、設備機器の更新などの諸課題への適切な対応を図る。

２．重点方針と運営の概要

公益法人５事業(公益事業３、収益事業２)の充実した実施を目指すため、特に以下の４点に留意する。また、昨今の急速な少子化と人口の減少を踏まえ、これまで以上に「つながりとひろがり」を重視した効果的な事業推進を図る。

（1）浜田広介記念館の利用者拡大のための具体的な方策

① 高畠町内や近隣市町だけでなく、近県の小学校、幼児教育施設等への広報活動を積極的に行い、修学旅行や遠足等の招致に努める。
② 観光施設、観光会社へのＰＲ活動を継続し、特に高速道路のスマートインターチェンジが開設を見越した福島県方面への売り込みを強化する。
③ 新聞、放送などのメディアを通した多様な情報発信とともに、記念館ホームページによるタイムリーな情報提供を行う。
④ 冬季利用の促進(「福よこい!オニとなかよし！」、古本市等の展開）を図る。

⑤ 教育文化施設としての機能の更なる向上を図る。（体験活動や学習機能を充実、所蔵資料の活用、講演や講座研修を通した積極的な「ひろすけ童話」「広介記念館」の発信、紹介）

⑥ 町立図書館･遊戯場等との連携､子育て支援事業など県や町の施策への協賛を行うなかで､入館料、施設利用料の弾力的な運用を図る。

⑦ 魅力的な展示（常設・企画）の工夫及びガイド技能等の向上を図る。
（職員及びボランティアガイド、中学生ボランティアガイド研修の充実）

⑧ 浜田広介及びひろすけ童話関連の所蔵資料の整理活用、寄贈資料の整理保管に努める。

⑨ 喫茶・売店部門の更なる充実を図る。（ふるさと納税返礼品、新商品の企画及び販売など。）

⑩ ひろすけ童話の「愛と善意」の精神のもとに、来館者対応の更なる質の向上を図る。

（2）地域や関係団体との連携体制

①「ひろすけ会」をはじめ、地域各種団体との一層の連携強化を図る。
（特に中高大生への各種イベント参加・出演の働きかけ）

② 町当局、観光協会、町内文化施設、地元企業との連携を図る。（特に広報関係）

③ 日本児童文芸家協会、青おに童話の会との連携を強化する。また全国文学館協議会との情報交換を行い、文化施設としての専門性向上を図る。

（3）施設・設備の経年劣化を踏まえた計画的な整備・保守・点検の実施

経年劣化や老朽化に伴う施設の保全・補修について、町当局と協議しながら着実に推進する。特に、設備機器の大規模な更新などの諸課題については、町当局、関係機関と連携を密にして検討を進めていく。

（4）法人の運営

① (株)藤和税経オフィス及び青木勲税理士事務所との顧問契約締結を継続して行う。

② 定款、施行規則等に基づく組織体制と適切な職員配置を行う。

３．業務及び事業報告

《 全般的な成果と課題 》

（1）来館状況及び来館者拡大のための方策における成果と課題

＜成　果＞

① 入館者数は、５％増の９，９００人であった。個人入館者数の増加により、入館料も昨年より６％増となった。今後も幅広い年齢層に向けて記念館の魅力を発信していくことが集客につながるものと考える。

②「第３５回ひろすけ童話賞」並びに「第３５回ひろすけ童話感想文・感想画全国コンクール」も多くの来賓においで頂き、ひろすけ童話の魅力に触れていただいた。その他のイベントについても、前年度の反省を生かしながら工夫、改善したことで、多くの来館者に楽しんでいただけた。

③ 今年度の企画展で「故郷」に焦点を当て、町内などの近隣地域の方には身近なこととして、関心をもってもらえるように、そして遠くからの方には郷土愛を持った新たな広介の魅力を発信する機会としたことは、ひろすけ童話を広く深く知ってもらうのにとても効果的だった。今後も様々な視点でひろすけ童話の魅力を発信していくことが、多くの方の来館につながるものと考える。

④ ＨＰやFacebook、Instagramを活用して、開館状況や事業開催時の留意事項、イベントの内容等の情報発信を行った。また、ＨＰのリニューアルに向けた具体的な計画・準備も進めることができた。

⑤ ひろすけボランティアガイドは、入館者からも高い評価を得た。高畠中学生のガイドも希望する生徒に研修を行い、８月～１０月の期間、来館者に向けてガイドを実施した。どちらも来館者に非常に好評で、リピーター増につながる取組みだった。

⑥ ６年度の後半から、「つながる・ひろがるプロジェクト」を立ち上げた。幼児施設・学校・図書館へ訪問しながらの記念館の体験活動を提案する活動は、確実に成果として現れた。来年度もプロジェクトを具現化していくことを通して、より魅力的な記念館にするための新たな取組みにチャレンジし、事業発展へつなげていきたい。

＜課　題＞

今年度の入館者は昨年に比べやや増加はしたものの、９，９００人で一昨年の１０，０００人を超える数字には至らなかった。今後、より多くの方に来館してもらえるよう、以下のような新たな取組みを考えていくことが必要であると考える。

① 今後さらに観光協会等の各種団体との連携を図り、イベントの開催や旅行業者へＰＲし、団体受け入れを増やしていきたい。

② リニューアルするＨＰを魅力的なものにして、既存のブログやFacebook等と合わせた効果的な活用を考えていきたい。

③「つながる･ひろがるプロジェクト」をより推進させ来館者増や収益増につながるようにしたい。

④ 広介の作品により関心を持ってもらえるように町との連携による展示リニューアルへの取り組みを進めるなど、話題性のある展示を心掛けていきたい。

（2）施設・設備の整備・保守・点検の実施における成果と課題

＜成　果＞

① 町当局により、以下のような、施設・設備の補修、整備が行われ、様々な経年劣化による不備に対応することができ、来館者の安全安心につながった。

・　１１月に吊りバトンモーター油漏れ発生、３月点検後部品交換　　（サンセイ）
・　１２月に「監視カメラ」修繕設置　　（ファクト）
・　１月にホール非常灯交換　　（渡会電気）
・　雨漏りを指摘されていた玄関アプローチの天井に１月、波板トタンを設置
（社会教育課）
・本館機械室機械搬入口扉修理　　（千歳建設）

ほかに、パタパタ絵本のデジタル化や前庭池の杭交換に向けた取組みを行った。

② 施設の管理をする高畠町社会教育課と密に連携することで、様々な施設、設備の修繕、整備への迅速な対応を行うことができた。

＜課　題＞

① 施設の老朽化に伴う、抜本的な整備を今後計画的に行うことが必要である。特に数百個に及ぶ照明器具のＬＥＤ化は早急に行うべき課題と考える。

② 展示に使用しているプロジェクター等の機器の老朽化への対応も喫緊の課題である。

③ 職員の作業効率化のための情報機器の更新や環境整備も課題である。

（3）公益財団法人としての会計管理、組織体制の整備

① (株)藤和税経オフィス及び青木勲税理士事務所との顧問契約の締結を継続し、適正に会計管理を進めることができた。

② 定款、施行規則等に基づく組織体制と職員配置を行い、適正な組織運営ができた。

《 事 業 報 告 》

（1）公益目的事業

① 公益目的事業１（「公１」）

「ひろすけ童話」の普及及び児童文学の振興を目的としたコンクール等の実施

ア．第３５回ひろすけ童話賞

□ 主　催：ひろすけ童話賞委員会
（高畠町、高畠町教育委員会、浜田広介記念館、日本児童文芸家協会）

□ 後　援：文化庁、山形県、山形県教育委員会、山形銀行、報道関係各社ほか

□ 経　過：

５月２９日：第１回ひろすけ童話賞委員会（浜田広介記念館）

７月２８日：最終予備選考委員会(東京・日本児童文芸家協会事務所)

８月２３日：最終選考委員会(東京・都道府県会館)

９月　１日：第２回ひろすけ童話賞委員会（紙上審議）

１０月　１日：「第３５回ひろすけ童話賞」発表

授賞作：「コンスケとはるのともだち」

出版社：のら書店　　作者：すとうあさえ

１１月　１日～１２月１５日：「ひろすけ童話賞作品展」

（浜田広介記念館 むくどりギャラリー）

１１月　４日：第３５回ひろすけ童話賞贈呈式(浜田広介記念館 ひろすけホール)

【ひろすけ童話賞委員会】

委 員 長	髙梨忠博
副委員長	近野久左エ門、遠藤正真、山本省三
委　　員	山下英一、中川栄子

【ひろすけ童話賞選考委員会・予備選考委員会】

選考委員	委 員 長	山本 省三	予備選考委員	金治 直美
	副委員長	戸田 和代		光丘 真理
	委　　員	※すとう あさえ		うちやま ともこ
	委　　員	馬場 重行		間部 香代
	委　　員	さだ まさし		横田 明子

※著作が最終選考に残ったため、最終選考辞退

イ．ひろすけ童話賞児童部門

◇第３５回ひろすけ童話感想文・感想画全国コンクール

□ 作品規定：感想文の部……原稿用紙使用とし、１２００字以内を厳守

感想画の部……４つ切り画用紙（色画用紙も可）に限定

画材はクレヨン、絵の具に限定

□ 募集対象：感想文は小学生対象、感想画は幼児（３歳以上）及び小学生

□ 経　　過：

令和７年１０月３１日：募集締切

１１月１５日：感想文第一次選考会（浜田広介記念館）

選考者：高畠町退職校長会

１２月１９日：審 査 会（浜田広介記念館）

感想文選考委員：堀米薫（リモート参加）、岡英里奈（リモート参加）、半田和彦

感想画選考委員：沖津信也、清水恵子

令和８年２月２８日：表彰式

３月　１日～４月　７日：ひろすけ童話感想文・感想画全国コンクール入賞作品展

【応募数・入賞数】

区　分		応募数	入賞数	内訳		
				高畠町	山形県内（高畠町除く）	山形県外
感想文		７３	１８	１０	６	２
感想画	幼児	２００	１９	７	９	３
	児童	３６５	４１	１２	２７	２
合　計		６３８	７８	２９	４２	７

◇感想文の書き方講座

令和７年８月１０日 参加者：８人

講　師：中川栄子（童話賞委員）

ウ．第２２回ひろすけ童話造形創作コンクール　　題材「ある島のきつね」

□ 経　　過:

◇造形創作講習会　題材「ある島のきつね」

令和７年７月１３日 参加者：１６人

講　師：佐藤 繁、二瓶直樹

令和７年８月３１日：募集締切　応募数２３点

９月１２日：審査会　　入賞数１３点

（審査員：佐藤 繁、二瓶直樹）

１０月　４日：表彰式

１０月　４日～１０月１９日：入賞作品展

② 公益目的事業２（「公２」）

児童文学・児童文化発展のための事業

ア．体験活動事業の実施

◇はっぴいほりでいず

◆「ひろすけ小石コンクール・ひろすけぬりえコンクール」

令和７年５月８日～１１月３０日

参加者：小石４９８人、ぬりえ６７人

◆「ひろすけ小石コンクール・ひろすけぬりえコンクール」作品展

令和７年６月１日～１２月２６日

◆「ひろすけクイズに挑戦！～これであなたもひろすけ博士～」

令和７年８月１日～８月３１日 参加者：２４３人

◆「福よ来い！オニとなかよし！」（親子参加型）

令和８年１月２４日 参加者：１６人

イ．各種イベントの実施

◇ひろすけ子ども祭

日　程：令和７年５月４日～６日　期間入館、まつり参加者数：１，１０２人

内　容：４日：魚つり、おもしろマジックショー、よさこいソーラン、昔がたり
けん玉パフォーマンス＆指導、クラフトバンド小物販売、焼き菓子等販売

５日：ミニ新幹線乗車、魚つり、人形劇、ペットボトルキャップの帽子つくり（体験）
ヘアアクセサリー販売、焼き菓子・軽食販売

６日：子どもの日コンサート　「こどもの日特別企画」中学生以下無料

ウ．創作・研究活動への支援

◇童話創作育成講座（青おに童話の会）

指　導：堀米 薫

□ 経　　過

経過：～１０月　　：童話創作（各自）、童話添削（堀米薫）

１０月１９日：童話のつくり方講座（会員・一般向けに開催）

１１月～　　：童話推敲

令和８年　３月　　：同人誌「青おに第３０号」発刊

３月２９日：合評会

エ．企画展の実施

◇「ひろすけ童話のふるさと」

期　　間：令和７年９月１０日～１１月２４日

会　　場：浜田広介記念館　常設展示室

期間入館者：３，０３１人

展示資料　：郷里を題材にした童話や同級生との手紙、校歌に関する資料を展示した

展示数　：４３点

オ．自主公演や主催事業の実施

◇昔がたり

日　程：４月～１１月の第１日曜日　　参加者：１００人

出　演：まほろば語り部の会

◇夏休み企画「ひろすけ記念館で絵をかこう！」

日　時：令和７年７月２６日　参加者：１４人

講　師：清水恵子（ひろすけ童話感想画全国コンクール審査員）

◇「おはなし会」

日　時：令和７年８月２３日　参加者：１２人

内　容：ひろすけ童話よみきかせ　　（ひろすけボランティアガイド他）
「赤いポケット」「うさぎのみみしばり」「泣いた赤おに」

◇クリスマスイベント＆ミニ縁日

日　時：令和７年１２月１４日　参加者：３７人

内　容：人形劇「やかましやのヤカちゃん」他　（人形劇団あ・い）
紙芝居「いものきょうだい」、エプロンシアター「ねこのおいしゃさん」
（おはなしキャラバンりぼん）

◇高橋うらら講演会

日　時：令和７年１０月１９日

場　所：高畠中学校

対　象：中学１年生

内　容：日本児童文芸家協会理事長高橋うらら氏による童話の書き方講座

◇大竹史朗ギター演奏会／コンサート

日　時：令和７年１１月９日　参加者：計９９名

内　容：濱田滋郎（広介次男）が懇意にしていたギタリスト大竹史朗によるギターコンサート
①演奏会（青少年向け／置賜文化フォーラム支援事業）
②コンサート（有料）

③　公益目的事業３（「公３」）

浜田広介と児童文学関連の資料収集・保存・研究・展示及び施設の維持管理

ア．入館状況

・本年入館者累計は９，９００人で、昨年度比５％増（４８３人増）だった。

・５月、８月、１０月の入館者が多かった。

・入館者増へ向けてやまがた子育て応援パスポート（入館割引）、JAF会員優待（ドリンク割引）、各種スタンプラリーへの協力・参加を引き続き行った。

イ．浜田広介及び児童文学資料の調査、収集、保存及び研究

□ 記念館の資料等の管理・運用は、「浜田広介記念館」条例施行規則第１７条・第１８条・第１９条により行った。

□ 収蔵庫の整理と新たな資料を収納する場所の確保作業を引き続き進めた。

ウ．常設展の展示企画と実施

常設展については、ひろすけ童話が掲載されている絵雑誌を展示していたケースを、郷土を題材としたひろすけ童話の書籍に、初山滋の資料を展示していたケースを広介と髙森務氏の関連資料にそれぞれ変更した。

エ．施設の維持管理および音響・映像ソフトの企画・監修

□ 施設及び物品の管理については、「指定管理者の管理運営に関する仕様書」に基づき行った。

□ 記念館の清掃及び環境整備の保持に関することは、下記の通り行った。

◆館内清掃

業者に委託　日常の清掃業務、定期的なカーペット洗浄・ガラスの全面清掃等

その他（職員）　日々の清掃（書棚・陳列棚・展示ケース・生家等）業者に任せられない部分の清掃・整理・点検

◆屋外環境整備

・芝刈り、草刈り、雪囲い等（日々雇用職員）・日常の除草、秋の球根定植（職員）

・春の花苗定植（教職員ボランティア・職員）・庭木伐採（シルバー人材センター他に依頼）

□ その他

◆経年劣化による修繕等（高畠町実施は前述）

本 館

- ４月～　展示設備不具合「おはなしの木」スピーカー修理　（ファクト）
- ４月　喫茶コーナー手洗い場、水漏れのため排水管を交換した。（県南設備）
- ８月　「パタパタ絵本」修理、「ある島のきつね」ランプ交換（ファクト）
- ８月　警備用電話回線断線によるセキュリティ回線復旧作業（置賜警備保障、ＴＤＫ）
- ９月　童話ルームカーテンレール、カーテン交換工事（新藤建設）
- １１月　応接室前廊下天井、点検口設置並びに塗装工事（新藤建設）
- １２月　本館機械室大型機械搬入口扉不具合あり、点検後 簡易修理（千歳建設）

◆避難訓練（火災）

日程／①１２月４日　（机上訓練）　職員６名

内容：ホール機械室で火災が起きたという想定で机上訓練を行った。

②１月２２日　職員７名、置賜警備保障１名、消防署（立合者）３名

内容：本館機械室で火災が起きたという想定で訓練、避難誘導の手順の確認および消火訓練（訓練用消火器使用）を行った。

（２）収益目的事業

①　収益目的事業１（「収１」）

ア．施設貸与（ひろすけホール・研修室・生家）

施設利用稼働数は１１１日で、昨年より４日少なく利用人数は4，４３２人で昨年より５１７人増加し、昨年度比１３％増、収益は昨年度比４７％増となった。

イ．「むくどりギャラリー」展示

施設の利活用として、むくどりギャラリーに各種の展示を行った。

・４月１８日～　５月３０日　「日本児童文芸家協会創立７０周年記念展」
・６月１３日～　９月２３日　「ひろすけ童話感想文・感想画全国コンクール特別入賞作品展」
・１０月４日～１０月１９日　「第２２回造形創作コンクール作品展」
・１１月１日～１２月１４日　「ひろすけ童話賞作品展」
「日本児童文芸家協会の作家たちによるひろすけ童話を書きつなぐ展」
・１月１４日～　２月１５日　「干支と写真でつづる広介記念館の一年」
・3月　２日～　４月　６日　「第３５回ひろすけ童話感想文・感想画全国コンクール入賞作品展」

②　収益目的事業２（「収２」）

ア．売店コーナー

ひろすけ作品の書籍をはじめ、ひろすけ童話賞受賞作品、記念館オリジナルグッズを販売した。収益は、２月を除いた冬期間の来館者が減少したこともあり、昨年度比０．１％増とほぼ変わらなかった。ひろすけ童話の絵本・書籍に関しては１月より世界文化社発行の「浜田広介童話集」を販売開始し、売り上げも順調である。

イ．喫茶コーナー

猛暑のため、赤おにソフト、冷たい飲み物などの売れ行きが増したが、今年度は昨年度比約０．２％増とほぼ変わらなかった。赤おにソフトクリームは夏季限定販売（７月１日～１０月１３日）とした。

４．その他の業務

（１）館報及び機関誌の発行

① 館報第２５号の発行

令和６年度における公益財団法人浜田広介記念館の事業概要等を収録した。

令和７年８月３０日付けで発行、関係者や関係機関等へ送付した。

② 機関誌「浜田広介記念館だより」の発行

第３３号を、令和７年９月１５日付け、第３４号を令和８年３月１５日付けで発行した。

高畠町広報とともに隣組回覧をして、町民の方々に、記念館情報をお知らせした。

記念館関係者はじめ、関係施設、町内の小・中学校などにも配布した。

（２）広報・宣伝活動

① ホームページ、ＳＮＳへの掲載

・昨年より引き続き、当館のホームページ、Facebook、Instagramを館内で管理運営し、イベント情報やお知らせ等を公開している。また館長ブログを随時更新し、館内の活動について報告した。

② 各種事業について報道機関へのＰＲ

・山形県生涯学習情報提供システム　やまがたマナビィnetへ情報提供

・山形新聞、ＮＣＶ等による各種事業ごとの報道、記事掲載

③ 各種雑誌等有料掲載記事

・「２０２５ たかはた春まつり」

・「児童文芸」秋号（１０／１発売）広告掲載

・「２０２５ 秋のふるさとまつり」ひろすけ祭・童話童謡祭、企画展

④ 各種雑誌等無料掲載記事、広告への協力

・高畠町広報に随時イベント情報掲載

・「たかはた子育てガイドブック」

・山形置賜観光協会「米沢・置賜 春の体験プログラム２０２５」

・「山形 鶴岡 酒田 米沢 蔵王‘２７」、「こどもとあそぼ！東北」（るるぶ山形）

・「山形‘２７」（まっぷるマガジン）

・パーク２４ Ｗｅｂページ（タイムズクラブ）

⑤ テレビ等の取材協力

・ＴＵＹ　「どすこい山形」（7/３０放送）

・ＹＢＣラジオ　「ゲツキンラジオぱんぱかぱーん」　ラジぱんＩＮ高畠（9/4放送）

・ＮＨＫ やまコレ「いるかもしれない」　（2/２７ 再2/２８ 放送）

⑥ ＪＲ高畠駅に横幕設置（4/２２～１２/9）

⑦ スタンプラリー等で当館を告知

・謎解きスイーツの旅スタンプラリー（8/１～１１/３０）

・伊達三日月街道 スタンプラリーマップ 高畠スタンプラリー編（9/１～１１/３０）

５．関係各団体との連携

ア．ひろすけ会

□ ひろすけ会総会　令和７年５月１７日　参加者：３１人

□ 研修旅行　参加者：１９人

令和７年６月２８日　「長井市・白鷹町」　―　長沼孝三彫塑館、古代の丘資料館ほか　―

□ ひろすけ講座（講演会）　参加者：４０人

令和７年８月３０日 広介童話の世界　―「龍の目」と「赤おに」と「一筋の道」―

講師：樋口　隆（浜田広介記念館元館長）

□ ひろすけ会報の発行

ひろすけ会報第４４号を９月、第４５号を３月に発行し会員に配布した。

□ひろすけ祭・童話童謡祭（ひろすけ会主催）

令和７年１０月１２日　参加者：１７４人

読み聞かせ、パネルシアター、昔語り、ブックトーク、合唱、ひろすけ作詞の
校歌の映像紹介、魚つり、しゃぼん玉、果物・アクセサリー・軽食販売ほか

イ．青おに童話の会（公２ウ参照）

ウ．ひろすけボランティアガイドの会

会員数：７名（代表／菅野優子）

□ 総 会　令和７年４月１０日

□ 学習会　令和７年８月　２日「浜田広介について学ぶ」学習会

ボランティア実施数：毎週土日、団体予約は随時。（１～３月休会）

４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月
なし	５回	５回	３回	４回	３回	５回	７回	２回

エ．中学生ボランティアガイド

高畠中学校のガイドを希望する生徒に研修を行い、夏～秋にかけて来館者に説明を行った。

高畠中学校３年生５名が参加、実践した。

□ガイダンス　令和７年７月１５日(高畠中学校)

□学習会　令和７年８月　２日(浜田広介記念館)

□ガイド実践　夏休み期間(水・土)、９～１０月(土)計１８回(浜田広介記念館)

□感謝の会　令和７年１２月　４日(高畠中学校)

オ．まほろば語り部の会

まほろば語り部の会と共催で「昔語り」を行った。（公２オ参照）

６．１年のあゆみ

R7. 4. 1　たかはたグルっとスタンプラリー（～5/6）
2　町内小学校へ童話セット贈呈
6　昔がたり（4月～11月.第一日曜日開催）
11　評議員選定委員会
18　ひろすけボランティアガイド総会
むくどりギャラリー「日本児童文芸家協会創立７０周年記念展」（～5/30）
22　高畠駅ホーム横幕設置（～12/9）

5. 1　屋代小創立記念式典にて童話セット贈呈（館長）
4　ひろすけ子ども祭（～5/6）
8　ひろすけ小石・ぬりえコンクール（～11/30）
10　高畠高校美術部ボランティア活動（環境整備他）
17　ひろすけ会総会（主催：ひろすけ会）
24　組木絵寄贈「りゅうの目のなみだ」と「むく鳥のゆめ」の2作品をホールに展示
27　公益財団法人浜田広介記念館　監査
29　第１回ひろすけ童話賞委員会

6. 1　ひろすけ小石・ぬりえコンクール作品展（～12/27）
3　第１回理事会
10　むくどりギャラリー「ひろすけ童話感想文・感想画特別入賞作品展」（～9/23）
館長 感想文・感想画 募集要項を置賜管内小学校へPR（～6/17）
17　町内小学校ひろすけ童話感想画巡回展（～11月）
21　教職員ボランティア　早朝花植え
27　定時評議員会 、理事・監事・評議員合同懇親会
28　ひろすけ会 研修旅行（長井、白鷹方面）

7. 1　テレビユー山形「どすこい山形」取材（7/30放送）
13　造形創作講習会
26　夏休み企画「記念館で絵をかこう！」

8. 1　古本市、ひろすけクイズに挑戦（～8/31）
2　浜田広介について学ぶ学習会
9　中学生ボランティアガイド始動（～10月）
10　ひろすけ童話感想文―書き方のヒント―講座
20　日本児童文芸家協会７０周年展（東京 ～8/26）（主催：日本児童文芸家協会）
22　ひろすけ童話賞最終選考委員会（東京都　都道府県会館）
23　おはなし会
30　ひろすけ講座（主催：ひろすけ会）
「浜田広介の世界　童話『泣いた赤おに』の形成」講師：樋口隆（浜田広介記念館元館長）

9. 2 伊達三日月街道スタンプラリー 高畠編（9/1～11/30）
10 令和７年度企画展「ひろすけ童話のふるさと」（～11/24）
12 ひろすけ童話「ある島のきつね」造形創作コンクール審査会
20 企画展展示解説

10. 1 第35回ひろすけ童話賞発表
4 ひろすけ童話「ある島のきつね」造形創作コンクール表彰式
（応募作品展 10/4、5 入賞作品展 ～10/19）
7 緑光会展・ひろすけ童話感想画全国コンクール優秀作品展示（～10/12 ナセBA）
12 ひろすけ祭童話童謡祭 （主催：ひろすけ会）
18 企画展展示解説
19 童話のつくり方講座、合評会 （主催：青おに童話の会 ）
21 高橋うらら氏（日本児童文芸家協会長）講演会（高畠中）
22 田中昭徳氏（浅草寺貫首「わが祈り」作曲者、作詞：浜田広介）来館
「ひろすけ童話を書きつなぐ展」（～12/14）

11. 4 第３５回ひろすけ童話賞贈呈式
9 大竹史朗ギターコンサート（1部：青少年のための 2部：一般）
15 第35回ひろすけ童話感想文全国コンクール 第一次選考会（選考：退職者校長会）
小川未明文学館（新潟県上越市）第３回文学館講座「浜田広介の生涯」へ講師派遣
17 ひろすけ忌（53回忌 催しなし）

12. 4 避難訓練（机上）
14 クリスマスイベント 人形劇団「あ・い」、高畠おはなしキャラバンりぼん
19 ひろすけ童話 感想文・感想画全国コンクール審査会

R8. 1. 19 収蔵庫燻蒸 （～1/21）
14 むくどりギャラリー「写真と干支人形展」（～2/19）
22 避難訓練
24 「福よこい！オニとなかよし!」

2. 1 古本市（～2/25）
6 県立入検査
28 第３５回 ひろすけ童話感想文・感想画全国コンクール 表彰式（入賞作品展3/1～4/5）

3. 18 第２回理事会
26 第１回評議員会
29 青おに童話の会 合評会、新入会員歓迎昼食会（主催：青おに童話の会）

＜Ⅳ＞管理に関する協定

令和７年度　まほろば・童話の里浜田広介記念館　年度協定の締結について

令和７年４月１日からの高畠町の指定管理の「基本協定」に基づき、下記の通り「年度協定」を締結した。

まほろば・童話の里「浜田広介記念館」の管理に関する年度協定書

高畠町長　髙梨 忠博（以下「甲」という。）と公益財団法人浜田広介記念館理事長　近野久左エ門（以下「乙」という。）とは、令和７年３月３日に、まほろば・童話の里「浜田広介記念館」（以下「記念館」という。）の管理に関して締結した記念館の管理に関する基本協定（以下「基本協定」という。）に基づき、記念館の管理に係る年度協定（以下「年度協定」という。）を締結する。

（年度協定の目的）

第１条　年度協定は、記念館の管理業務（以下「本業務」という。）の各年度の業務内容及び本業務の実施の対価として支払われる指定管理委託料を定めることを目的とするものである。

（令和７年度の業務内容）

第２条　甲及び乙は、令和７年度の業務内容は、記念館の指定管理者の管理運営に関する仕様書及び乙が提出した事業計画書に定めるとおりであることを確認する。

（令和７年度の指定管理委託料）

第３条　甲は、本業務の実施の対価として、金４０，４５０,０００円（消費税及び地方消費税を含む）を支払うものとする。

２　指定管理委託料は、４月及び１０月の前後期に分割し支払うものとする。

（疑義の決定）

第４条　年度協定に定めのない事項については、第一義的には基本協定によるものとする。

基本協定にも定めのない事項については、甲と乙の協議のうえ、これを定めるものとする。

本協定を証するため、本書を２通作成し、甲、乙がそれぞれ記名押印のうえ、各１通を保有する。

令和７年４月１日

甲　山形県東置賜郡高畠町大字高畠４３６番地

高畠町長　髙　梨　忠　博

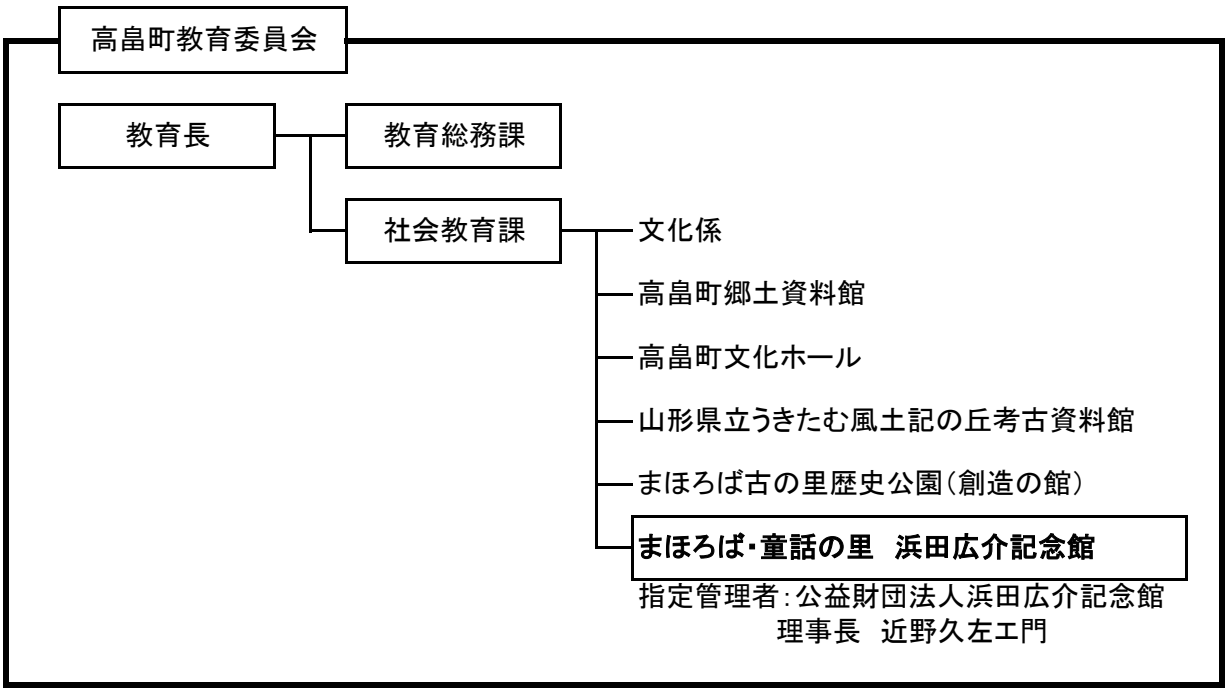
乙　山形県東置賜郡高畠町大字一本柳２１１０番地

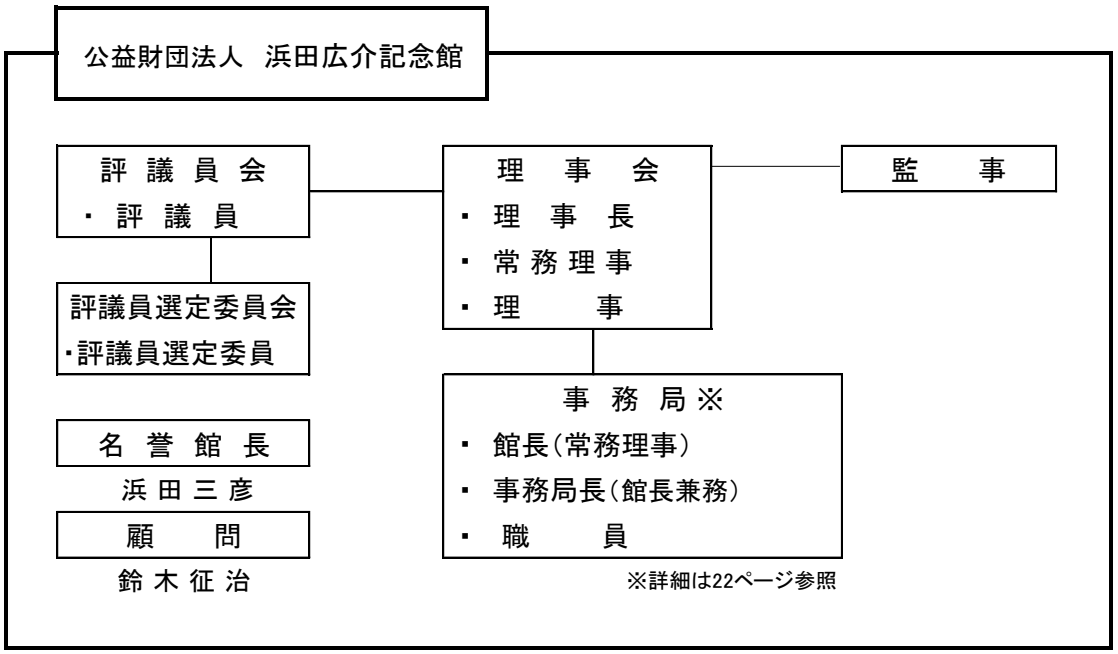
公益財団法人浜田広介記念館

理事長　近野　久左エ門

〈Ⅴ〉組織及び役職員

1. 組　織　図





２.役職員構成と職員構成

（１）理事・監事・評議員

役職	氏　名
理事長	近野　久左エ門
理事	遠藤　正真
	山本　省三
	半田　和彦
	冨樫　とみよ
	栗田　政弘
	白石　美保子
	加藤　義博
	島津　正道
	戸田　竜馬
	平　千秋
常務理事	金子　研司
監事	木村　健彦
	杉沼　憲一

理事任期：令和６年６月～令和８年６月

監事任期：令和６年６月～令和10年６月

役職	氏　名
評議員	深瀬　吉弘
	栗田　洋子
	吉田　弘二
	山村　義美
	村上　健
	髙梨　麗子
	武田　正隆
	佐藤　繁
	峯　浩明
	竹田　広幸
	鈴木　久仁子
	庄司　薫

評議員任期：令和６年６月　～令和10年６月

（２）職員構成

No.	職名
1	館長（常務理事） 事務局長　兼務
2	事務局次長
3	学　芸　員
4	準　職　員
5	準　職　員
6	嘱 託 職 員

３.業務の委託（再委託）

業　務　名　（委託業者）	内　　容
電気設備保安業務　（東北電気保安協会）	・電気設備点検（定期）：年６回
清掃業務（日常・定期） （シルバー人材センター）	・日常清掃１８４日 ・カーペット・ガラス清掃 各年２回
冷温水発生器保守点検業務(本館)(黒澤建設工業)	・冷暖房の切替えと保守点検１回
空調設備機械類点検整備業務(ホール)(三晃空調)	・冷暖房の切替えと保守点検１回
燃料用地下タンク、配管点検業務　（シグマ）	・点検：年１回
警備業務　（置賜警備保障）	・警備業務：常時
消防用設備等点検業務　（置賜警備保障）	・定期点検：年２回
樹木管理業務　（福沢地区農業機械利用組合）	・樹木の消毒（アメシロ）２回
樹木管理業務　（個人へ依頼）	・樹木の剪定　1回
収蔵庫燻蒸　（東化研）	・１/１９～１/２２
特殊建築物調査　（渡部建築工房）	・８/５（３年毎、調査後県へ報告）

４. 理事会・評議員会の開催 ／ 会場：浜田広介記念館　ひろすけホール

（１）理事会

◇第１回理事会／令和７年６月３日

議事：

議第１号　職務執行状況報告

議第２号　令和６年度公益財団法人浜田広介記念館事業報告及び収支決算について

議第３号　令和７年度公益財団法人浜田広介記念館収支予算書（確定決算後）について

議第４号　公益財団法人浜田広介記念館令和７年度定時評議員会の開催について

議第５号　その他

◇第２回理事会／令和８年３月１８日

議事：

議第１号　職務執行状況報告

議第２号　公益財団法人浜田広介記念館「非正規職員就業規則」の一部改正について

議第３号　令和８年度公益財団法人浜田広介記念館事業計画案について

議第４号　令和８年度公益財団法人浜田広介記念館収支予算案について

議第５号　令和７年度第１回臨時評議員会の開催について

（２）評議員会

◇定時評議員会／令和７年６月２７日

報告：公益財団法人浜田広介記念館評議員の選任について

議事：

議第１号　令和６年度公益財団法人浜田広介記念館事業報告及び収支決算の承認について

議第２号　令和７年度公益財団法人浜田広介記念館収支予算書（確定決算後）について

議第３号　その他

◇第１回臨時評議員会／令和８年３月２６日

議事：

議第１号　公益財団法人浜田広介記念館「非正規職員就業規則」の一部改正について

議第２号　令和８年度公益財団法人浜田広介記念館事業計画案について

議第３号　令和８年度公益財団法人浜田広介記念館収支予算案について

〈Ⅵ〉付　録

1.令和7年度　入館者数、施設利用者状況（多目的ホール、会議・研修室、生家）

令和7年度入館者数

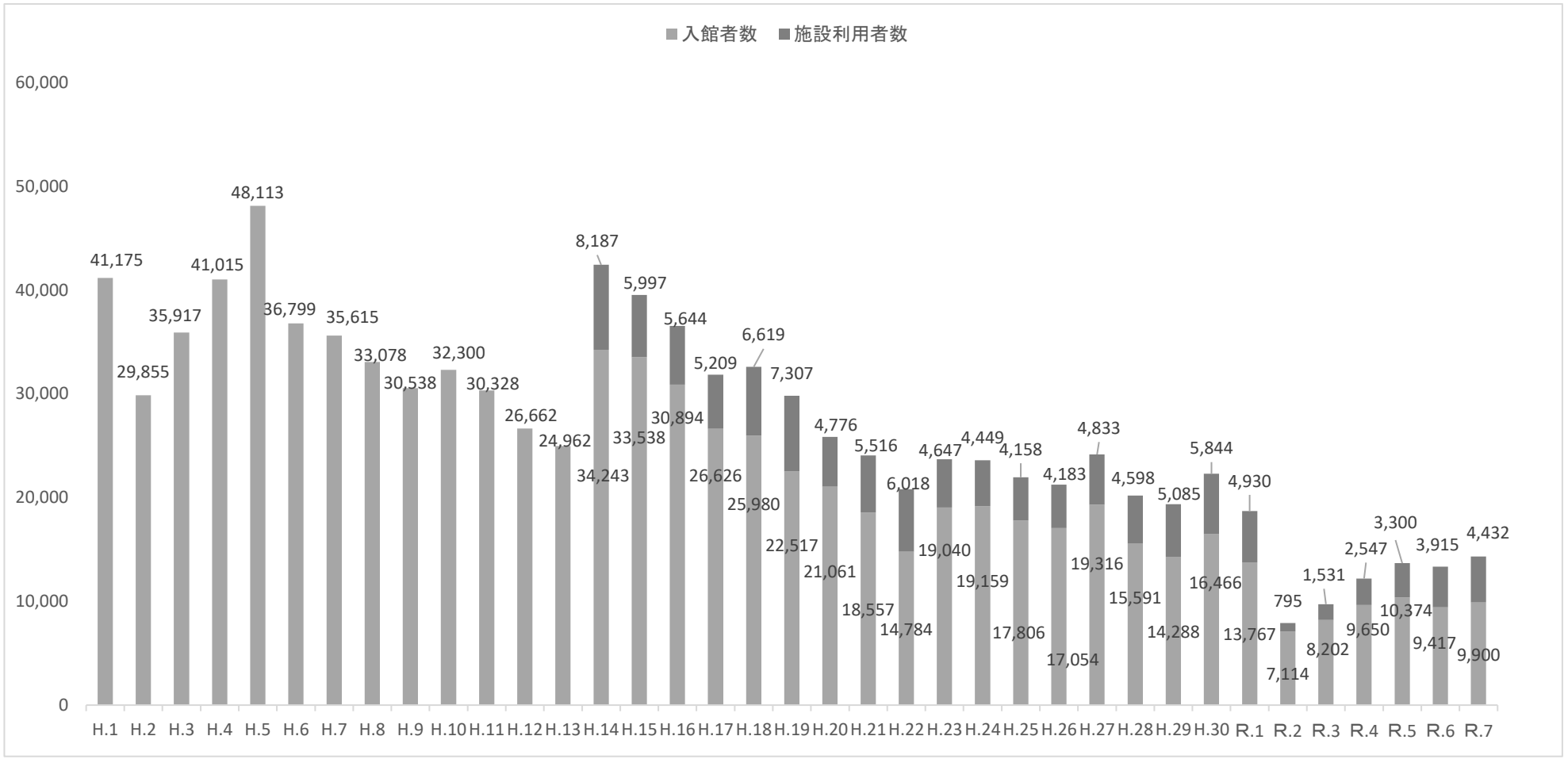
（単位：人）

日付	個人入館				団体数	団体入館				減額入館				有料入館合計	幼児3才未満	減免	他	無料入館合計	入館者合計
	大人	学生	小中学生	小計		大人	学生	小中学生	小計	大人	学生	小中学生	小計						
4月	294	3	46	343	1	21	0	0	21	31	1	11	43	407	50	265	9	324	731
5月	779	15	138	932	4	59	30	0	89	185	0	13	198	1,219	429	142	1	572	1,791
6月	290	9	22	321	3	33	0	105	138	37	0	4	41	500	32	78	0	110	610
7月	340	7	51	398	1	16	0	0	16	32	1	5	38	452	70	98	4	172	624
8月	718	21	184	923	4	24	0	57	81	88	0	18	106	1,110	204	96	6	306	1,416
9月	402	18	48	468	4	117	0	0	117	51	0	19	70	655	70	179	4	253	908
10月	452	4	34	490	15	393	0	157	550	40	0	15	55	1,095	173	264	42	479	1,574
11月	422	4	43	469	6	147	0	0	147	64	0	9	73	689	155	33	14	202	891
12月	93	4	14	111	0	0	0	0	0	30	0	6	36	147	67	12	6	85	232
1月	79	3	8	90	0	0	0	0	0	4	0	0	4	94	26	22	3	51	145
2月	191	4	23	218	0	0	0	0	0	35	0	5	40	258	79	31	82	192	450
3月	283	6	35	324	0	0	0	0	0	29	0	8	37	361	75	45	47	167	528
年合計	4,343	98	646	5,087	38	810	30	319	1,159	626	2	113	741	6,987	1,430	1,265	218	2,913	9,900

令和7年度施設利用状況（多目的ホール・会議・研修室、生家）　　稼働日数:111日

日付	施設利用回数(回)			利用人数(人)					減免数(回)　施設利用回数に含む	
	ホール	会議・研修室	生家他	大人	学生	生徒・児童	幼児	合計	有	無
4月	3	6	1	129	1	3	0	133	9	1
5月	14	9	1	912	41	220	259	1,432	17	3
6月	9	1	1	320	11	26	3	360	9	1
7月	3	5	3	102	0	19	32	153	9	2
8月	7	3	4	211	0	33	2	246	10	2
9月	6	5	2	274	10	16	41	341	6	6
10月	10	4	1	209	171	65	22	467	9	3
11月	8	6	1	459	67	53	6	585	5	5
12月	7	7	1	173	1	11	15	200	7	3
1月	3	1	0	33	0	10	4	47	4	0
2月	4	6	1	136	0	32	9	177	9	0
3月	8	3	0	241	15	35	0	291	8	2
年間合計	82	56	16	3,199	317	523	393	4,432	102	28

2.年間入館者数・施設利用者数推移



３. 収蔵資料数一覧

	区　　分	購入資料	寄贈資料	寄付資料	区分合計 （今年度受け入れ）
広介関係	書　　籍	424	300　(7)	484	29,360（37）
	原　　稿	2	9	10,917	
	自筆資料	0	3	377	
	書　　簡	10	129（26）	9,751	
	書　　画	1	117　(4)	353	
	印 刷 物	1	29	1,890	
	複　　製	1	2	58	
	視 聴 覚	19	10	18	
	遺　　品	3	107	621	
	他	2	52	3,670	
広介蔵書		0	248	5,461	5,709
研 究 書		673	143	0	816
その他		2	227　(4)	2	231　(4)
未整理（浜田留美氏より）		－	2,998	－	2,998
合計		1,138	4,374（41）	33,602	39,114

・() は令和７年度分受け入れ資料数で、左の数に含む。

４. 資料等寄贈者一覧　（敬称略）

【広介関係資料】

No.	寄　贈　者	資　料　内　容
1	石山みゑ子	書籍『ひろすけとくほん　２ねん』ほか　計６点
2	髙橋昌子	色紙「山は山晴れ…」
3	高野修	原画「泣いた赤おに」黒崎義介画　計２点
4	菊池峰月	色紙「舌切りすずめ」ほか　計３点
5	大河原巌	広介書簡ほか　計28点

【閲覧用図書】

No.	寄　贈　者	資料内容	冊数	No.	寄　贈　者	資料内容	冊数
1	井上　昭	児童書	1	6	小埜裕二	一般書	1
2	眞鍋ホウセイ	一般書	2	7	神泉薫	一般書	1
3	さいとうまほ	児童書	1	8	北川チハル	児童書	5
4	長井理佳	児童書	3	9	すとうあさえ	児童書	1
5	山極寿一	児童書	1	10	八鍬恵理子	紙芝居	1

まほろば・童話の里　浜 田 広 介 記 念 館
館　報　第26号（令和7年度）
令和8年8月30日発行

編集発行　まほろば・童話の里　浜田広介記念館
〒992-0334　山形県東置賜郡高畠町大字一本柳 2110 番地
TEL　0238-52-3838　FAX　0238-52-4588